

依れば大體 10 年倍加の増加率である。之は飛躍する今日の日本には全然當らぬものと信ずる。自分は今日の消費の状態より推定すれば 5 箇年計畫の如きは現在の生産數量の大體 2 倍を目標とすべきものと信ずる。夫でも獨逸、ソ聯の生産數には達せぬのである。日本の國力、日滿一如の經濟體系に於て、更に近く日滿支の協同體系の經濟ブロックを想定すれば尠くとも獨逸の現状位のものを次の 5 箇年計畫即ち第 2 次 5 箇年計畫の目標とすべきであると信ずるものである。

(2) 日滿支協同の經濟體系に於ける鐵鋼政策 日滿支の協同體系を示す經濟ブロックを考ふる時、其の人口に於て世界の 1/4 の 5 億を下らぬであらう、其の面積に於ては世界の 1/10 に當るのである。其の資源の狀況よりするも大體に於て此のブロック内には獨、佛、伊を一括した以上の資源を保有してゐるのである。實に其の前途は洋々たるものである。

我日本の將來は東亞新秩序の建設を前提とし歸納として其の經濟政策を樹立しなければならぬことは、今更説明を要せぬところである。鐵鋼政策が其の經濟政策の中樞をなし、全産業陣の中堅を形成せねばならぬことも亦収々を要せぬところである。

果して然りとせば今日の製鐵計畫にしても鐵鋼政策にしても鐵鑛石を其の領域内に求め得ずして之を外國に仰ぎ、自由貿易主義の觀念に支配されて建設せし過去の外國依存の鐵鋼計畫は、直ちに再検討をなすべきである。此の時に當て猶過去の情勢に支配されたり、過去の過誤を其の儘反省せず踏襲する如き因縁、情實に依てはならない。誤まれる過去を精算し、誤まれる計畫は之を改めて、新たなる經綸を行ふの心構と氣魄がなくてはならぬ。

此の前提に於て鐵鋼政策を按する時は日本は徒らに鐵鑛の原料資源に乏しき日本内地に無理な熔鑛爐を建設する必要はないのである。而して外國依存の屑鐵を原料とする普通鋼及特殊鋼を生産する屑鐵法の平爐や、電氣爐の濫設を急ぐ必要もないのである。東亞の全局を達觀して其の需給趨勢を案し適地適業主義に則した鐵鋼の増産計畫を樹立すべきである。日本は須く日滿支全體の綜合したる結果に於ての生産の最高擴充増加を計るべきである。

而して其の生産設備立地の選定の如きは日滿支協同體のフキラーとして之を公正適切に配分綜合することを目標として鐵鋼政策を確立せねばならない。(終)

## クルツプ式レン法の現況に就て

(鐵と鋼第 25 年第 11 號 976 頁)

フリードリヒ、ヨハンゼン博士

通譯者 鈴木泰次郎君

司會者 長谷川 熊彦博士

只今御指名に依りまして私から極く簡単にヨハンゼン博士の御來歴を御紹介申上げる事に致します。

同博士はクラウスタール大學の御出身で御座いまして製鐵方面には多年の御研究を積んで居られるお方で御座います。殊にマグデブルグの工場の研究部に居られまして皆さん御承知のクルツプ、レン式製鐵法を小規模のパイロットプラントに依りまして研究をお續けになり更に之をクルツプの工場で工業的に御始めになり、又フランケンスタインの工場でも貧ニツケル鑛に此方法を應用して好成績を擧げて居り其後獨逸では數個所に此種の工場が設立される様になりました。

是れに關しましては御承知のやうに滿洲、朝鮮或ひは内地の各製鐵業者が大變興味をお持ちになりまして、先年來調査を進められた結果、三菱鑛業會社、昭和製鋼所に於て率先して此の方法を輸入されまして、貧鐵鑛から特殊の製鐵をお始めになつて居られる事は皆さん新聞等で御承知と存じます。其の内容に就きまして、只今同博士からレン式の現況に就てお話し下さる事になつて居りますが當のクルツプ會社でも此の方法に非常に重きを於かれまして、現今ではクルツプレン式部と云ふ特殊な部門も出來て居りまして、ヨハンゼン博士は其の部長になつてお出でになるそで御座います。

幸ひヨハンゼン博士が 8 月中旬に東京の方に御出でになりましたので、我が鐵鋼協會の會員に對する御講演をお願い申しました所、御快諾下さいまして只今よりお話し下さる事になつて居ります。

又クルツプ會社の東京支店の鈴木さんが同博士と御同行になりまして御通譯に當られる事になつて居ります。

一寸簡單で御座いますが、御紹介旁々前置きを申上げる次第であります。

(鐵と鋼第 25 年第 11 號に掲上の通り)

山本瀧州工業會長 非常に有益な且つ興味深い御講演を下さいました所の小日山理事長及びヨハンゼン博士、並に御通譯下さいました所の鈴木さんに對しまして失禮で御座いますが會を代表しまして此の席から厚く御禮を申し上げます。大分時間も遅くなりましたから齋藤博士の閉會の辭をもちまして此の會を閉ぢる事に致します。(拍手)

## 閉會の辭

日本鐵鋼協會會長 工學博士 齋藤 大吉

今夕は昭和製鋼所の小日山理事長及獨逸のヨハンゼン博士に御講演を御願ひ致しまして通俗講演會を開催致しました譯であります。小日山理事長は「滿洲の製鐵事業の特徴」と云ふ事に就いて一時間餘に亘つて御熱心に御講演下さいました。私は不幸にして途中餘儀なく外出致しましたので其の始めと御結論の所しかお聴きする事が出来ませんでした。要するに小日山理事長の御意見としては、「滿洲は資源調査の結果鐵鑛資源が非常に豊富であり、尙將來も鐵鑛資源が発見されるであらう。現在でも多分 35 億噸以上は存在するであらう。又石炭の如きも滿洲事變當時滿鐵當路者に依つて調査された所は、僅かに 48 億噸と云はれて居つたのであるが、今日では 180 億噸、或ひは 200 億噸とも稱せられ、僅に 4 倍以上の増加

を示して居る。尙將來調査の進行と共に夫以上に殖える可能性もあると考へる。將來の日本は國策として熔鑄爐の製品及び鋼の半製品の製産は滿洲に委かして貰ひたい。日本には今後熔鑄爐を建てる必要はあるまい。又スクラップも從來の如く外國に依存する以上は日本には平爐の如きものを建てる必要はあるまい。若しあるならば鉄鐵或ひは半製品は滿洲の供給を受ければよい。日本内地ではもつと程度の高い工業に進出するのが本當だ」と云ふやうな御意見のやうに承りましたが、是れは小日山理事長の御意見として拜聴致しますが内地人として之に對し相當意見があることゝ存じますが今夕は謹んで拜聴致しまして、尙將來お互ひに克く研究して見る事にしたいと存ずるのであります。

又ヨハンゼン博士は長谷川博士の御紹介にも御座いましたやうに、多年に亘つてレン法の御研究を続けられ、幾多の困難を排して今日の成功を齎された譯であります。日本に於きましても其の特許を買ひ受けまして、三菱は清津に、昭和は鞍山に各其工場を建設し清津では既に操業を開始されるに至つて好成績を擧げて居られると云ふ事でありませう。

今夕は「レン法の獨逸に於ける現況」をお話下さしまして種々の成分の違ふ鐵鑄の操業の結果、或ひはレン法と熔鑄爐との比較、レン法と平爐とのコンビネーション、レン法と電氣爐とのコンビネーションに於て如何なる成績を得るかと云ふ事を詳しく例を擧げて御説明下さしました。のみならず非鐵金屬、即ちニッケル、銅、コバルト等のルツペを造る方法に就いて或ひはレン法をヴェルツ法とを結びつけて銅は銅、亞鉛は酸化亞鉛としてコンセントレートすると云ふ風に私共に單に鐵の還元就いてお話下されたのみならず非鐵金屬に關する應用に就いても詳しくお話下さしました。

尙此の御講演の原稿を頂戴致しまして會誌の上で又皆さんに御紹介する事が出来ると思ふのであります。

斯くの如く小日山理事長及びヨハンゼン博士から極めて有益なるお話を承りまして我々は啓發される所甚だ多かつた事を感謝致して居ります。失禮ながら此の席から御兩所に對し厚く御禮申上げる次第であります。又ヨハンゼン氏の講演を極めて明快に御通譯下さいました鈴木氏に對しても深謝の意を表します。

尙只今の御話につきましては御質問も御座いませうし、是に就いての皆さんの御意見を伺ふのも有益であると思ひますが、何分時間が差迫つて居りますから御質問が御座いましたら、何卒日本鐵鋼協會の方に御書面でも下さいませすればお尋ねいたしまして御返事することにしたいと思ひます。

終りに會員諸君は本日午前 9 時から約 6 時間に亘り 6 工場を御見學になられまして非常にお疲れであるにも拘らず、擧つて此の會場に御出で下さいまして熱心に兩氏の御講演を清聴されました事は、私共の非常に欣ばしく存ずる所でありませう、殊に此度は山本副委員長及滿鐵の渡邊工作局長等の一方ならざる御盡力によりまして此紀念講堂に 200 名に餘る聴講者を得まして、通俗講演會を開く事を得ました事は日本鐵鋼協會、滿洲冶金學會、兩學會の非常な欣びとする所でありませう。此の點に關しては前述の兩氏及御聴講の皆さんに厚く御禮を申上げる次第であります。是れを以つて閉會の辭と致します。(拍手)

## V. 奉天に於ける招待晚餐會の狀況

(康德 6 年 9 月 25 日午後 9 時開會於ヤマトホテル)

## 挨拶

滿洲工業會理事長 山本盛正君

一寸御挨拶申上げます。此の度日本鐵鋼協會の皆様方には全滿御視察の途次奉天にお出で下さいました。地元の我々と致しましては此の際なんとかして御視察の目的の達せられますやうに努力したい。何とかして長い旅行の御疲れを御慰め致したいと思ひましたが、何分にも至らぬ事ばかりで本來の御期待に副ふ事も出来なければ、充分の御慰めも出来ないと思ふやうな次第で御座います。其の點、此の席を藉りまして改めて御宥しをいただきたいと思ふのであります。

申す迄もない事で御座いますが、先年滿洲國の建國に際しましては、日本帝國としては一方ならぬ努力と犠牲を拂つて居るのであります。今でこそ國際聯盟なんかは眼中にありませんが、當時の日本としましては實にのるかそるか云つたやうな氣持で聯盟脱退までしまして滿洲國の建國を助成し、是れを承認したのであります。斯くの如く國際上の關係は無論の事、其の他凡有る方面に於て滿洲國の生みの親であり、育ての親である日本帝國を祖國に持つ我々在滿日本人としましては、各々其の立場に於て滅私奉公の誠を致さねばならない事は勿論の事でありまして、工業人は工業人の立場から滿洲國の工業界の伸張發展に努力すべき使命を持つて居るものだと思ふのであります。

現在滿洲國に於きましては、産業 5 年計劃を樹立しまして官民一致協力、着々實行の歩を進めて居る次第で御座います。

併しながら皆様御覽下さいました通り、5 年間であれだけの尨大な計劃を實行するので御座いますから、内容の細かい所まで充實して居ないと云ふ憾みがあるのでありまして、人間で申せば身量丈け出来上つて目鼻がまだ充分整つて居ないと云ふ程度かと思ひます。それも實行に着手致しましてから僅か 3 年か 4 年位の日子を經過したに過ぎないのでありますから無理もないのであります。

我が日本の工業界が今日の殷賑を招來する迄には 30 年から 40 年の月日を費してゐるのであります。而もそれに対して歐洲各國の人々は日本は長足の進歩をしてゐると云つて居られるのであります。が、滿洲國は日本が 30 年乃至 40 年を費した事を僅々 5 年、或ひは遅くとも 10 年間で完成しやうと云ふのでありますから非常な努力をしながら内容の充實まで行互らなないと云ふ事も已むを得ない事と思ひます。

併しながら此の尨大な計畫を 5 年間で完成しやう、或ひは遅くとも 10 年間で完成しやうと云ふやうな意氣込はどう云ふ所から來て居るか申しますと、それは我が日本の工業界と云ふものが充分發達し切つて居り、基礎が立派に出来上つて居る。滿洲國は日本のその立派に出来上つた基礎を土臺にしてやるのであるからそう云ふ事が出来る。技術の優れた人間がドンドン日本から來て呉れる、機械も來る、金も來る、それ故にこそかかる尨大な産業の計劃を樹立する事が出来るのであります。若し日本にあれだけの基礎が出来てゐなかつたならば、日本が何等土臺のない所にものを築き上げたと同様、30 年 40 年の努力を必要としなければならぬのであります。有難い事に現在の滿洲國は其の必要がない。凡ては日本に基礎が出来て居ります。

我々は日本と一體になる事に依つて斯る尨大なる産業計劃の確立、而して着々たる實行を見て居る次第であります。

最近私共は「滿洲國の産業の發展は日本の産業を壓迫する事にな